

自分の思いを即興的に伝え合える生徒の育成

—小中のつながりを意識したコミュニケーション活動を用いて—

特別研修員 外国語 山田 章恵 (中学校教諭)

<小中のつながり>

小学校外国語活動 “Hi, Friends!”

- ・英語にふれよう!
- ・英語を言える!聞ける!
- ・楽しい活動

中学校英語

- ・英語の基礎基本を身に付けよう!
- ・英語で思いを伝えたい!
- ・充実したコミュニケーション活動

生徒の実態

- ・既習の英語をうまく活用することが難しい
- ・自分の思いを十分に英語で伝えられない

授業実践【第2学年2学期】

「職場体験学習で経験したことや考えたこと、将来の夢について伝え合おう」

手立て1 : 小中のつながりを意識したコミュニケーション活動の工夫

導入1 Let's chant. (基本文をチャンツで練習)

What do you want to be?
I want to be a teacher.
... Yes! Yes!! Yes!!! Let's try.
Hi, Friends! より

外国語活動で慣れ親しんだリズムで本時の基本文を練習する。

職場体験& 将来の夢 インタビュー

4人1組で、順番に1人がインタビューを受ける人になり、他の3人がインタビューをする。



「PQRカード」を手に持ち、言うときに示す。

中学校英語 思いをつなぐポイント

- ・P=Plus One (1文足して)
- ・Q=Questions (質問して)
- ・R=Reactions (反応して)

小学校外国語活動
コミュニケーションのポイント

- ・Clear Voice (声)
- ・Eye Contact (視線)
- ・Smile (笑顔)

「PQRカード」を用いて即興的に答えたり反応したり質問したりして、やりとりをつなぐ。

手立て2 : コミュニケーション力を高める プラスワン文例集と帯活動の対話

導入2 Let's talk. (帯活動の対話練習)

Today's Topic: Last Weekend
A: What did you do last weekend?
B: I went to Takasaki to see a movie.
A: Really? ...

例えば、先週末のできごとを伝え合う中で、本時の基本文も練習する。プラスワン文例集で身に付けた便利な文も活用して、やりとりをつないでいき、コミュニケーション力を高める。



「プラスワン文例集」

英語でコミュニケーションして思いをつなぐときに便利な表現を、はじめに70個提示して練習する。30個分の余白には、自分で便利だと思った表現を追加して、オリジナルな文例集にする。

まとめ(インタビューで分かったことをレポート)

言えたことや聞いたことをクラスで発表して共有する。ALTや他のグループの仲間からの質問にも答える。最後に、伝え合ったことを文字にしてまとめる。



目指す生徒像 自分の思いを即興的に伝え合える生徒

<成果>

- プラスワン文例集を用いて便利な文を蓄積し、コミュニケーション活動で用いることができた。
- 帯活動の対話練習を毎時間継続したことにより、英語のやりとりに慣れ、コミュニケーション力が上がった。
- 小学校での「コミュニケーションのポイント」に引き続き、中学校での「思いをつなぐポイント」を意識したことで、即興的なやりとりをつなげられた。

<課題>

- 依然として、思いを英語で伝えることに苦手意識がある生徒もいるので、練習を続けて自信を持たせたい。
- やりとりの前に使う文を確認したがる生徒もいるが、文ではなく単語のメモを助けにやりとりする習慣を付け、即興性を意識して取り組ませたい。
- より即興的に伝え合える生徒の育成を目標に、長期的な練習の積み重ねが必要である。